



と www.tenpla.net

と プラネタリウム

今月のお題
.....

企業活動と天文学

企業人材の育成にも天文学って使えるのでは?というか、もっと使いましょうよ!という話です。



本文とは関係ないですが、三重でデジタル天体収集帖の普及イベントをしました!この報告はまた後日…。

一般的に、現代の天文学は企業活動からもっとも遠くにある学問分野のひとつと考えられています。企業お抱えの天文学者とか、社員研修の一環で天文学の博士号取らせたとか、あんまり聞いたことないですもんね。確かに、天文学は真理の探究を目的としており、なにか経済的に役立たせることを目的に行われているわけではありません。もちろん、研究の過程で開発された技術が民間に転用され、なにかの役に立つということがあります。ただし、それと同じ自然科学の基礎的な分野、例えば生命科学や化学などに比べればずっと小さな割合でしょう。しかし、天文学の成果ではなく、その成果を生み出すための思考の過程に注目すれば、また違った可能性が見えてくるのではないのでしょうか。天文学の研究に必要な不可欠な論理的思考や仮説検証のプロセス、さらには研究の着想に至る筋道などには、企業活動にも使える要素が少なくないと思うのです。

実際、高梨が運営に携わる東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム(東大EMP)や、京都大学が運営する京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム(京大ELP)などの社会人向けのリーダー育成プログラムでは、その講義群の中に天文学が組み込まれています。例えば、東大EMPでは全体で120の講義群がある中で、宇宙や地球にかかわるテーマの講義が10程度用意されています。これは、ビジネススクールなどの一般的な社会人向けプログラムでは考えられない、高い割合です(ふつうはゼロ)。これらのプログラムは一般社員向けというよりは、次世代のリーダー候補を鍛えることに特化したプログラムであるという特殊な事情もあるのですが、リーダーになる人たちが宇宙や地球を知っていることは重要であると考えている人たちがいる事は注目に値するでしょう。

実は大学や大学院で天文学を学び、学位を取得した後に、その経験を活かして民間企業などで活躍している人は少なくありません。天文学を専攻する学生のうち、研究者の道に進む人間はどちらかと言えば少数派。むしろ、一般企業などアカデミア以外の世界に進む人の方が多のですが、そのようにして広い世界に羽ばたいた方々の中には、すばらしい活躍をされている方も少なくありません(興味があれば、「オンライン進路相談会の実施報告」天文月報2022年1月号をご参照下さい、オンラインで公開されています)。このような事実は、天文学を学ぶことで鍛えた思考力が、一般社会でも十分通用することを証明していると言えるでしょう。

このようなことを踏まえると、企業で活躍できる人材を育てるために、天文学を題材に使うということも十分考えられると思うのです。では、なぜあまりそういう取り組みを聞いたことがないのかと言えば、私の見

立てによれば、単純にそういう事例が少ないから。ただそれだけの理由です。なぜ事例が少ないのかと言えば、天文学を学んだ経験がある人事研修担当者がほとんどいないから。だから、そもそも天文学を企業研修で使おうという発想にならないのです。もしこの見立てが正しいのであれば、解決方法は簡単です。そういう事例をどんどん作っていきましょう。

このような考えに基づき、天プラではそのような取り組みを始めています。数年前から、すでにいくつかの企業や行政組織の研修で天文学を題材としたプログラムの提供を行っているのです。あまり詳しいことは書けないのですが、結論だけ言えば、なかなか良い手応えです。横文字で言えばナラティブだとか、クリエイティビティだとか、パーパスだとか、そういうキーワードとの相性が良さげです。天文学という物珍しさで得をしている部分もあるのですが、研修担当者からも、受講された皆さんからも好意的に受け止めてもらっているようです。天文学のどのような要素が、どのような意味で社会人教育に役立つのかをきちんと整理し、体系化することができればより広く人事研修で使ってもらえるかもしれない。もしそうなれば、人々が天文学への理解を深めるための新しい入り口にもなることでしょう。研修に関わっている皆さん、興味があればぜひお声がけ!

【訂正】先月号の文中にありました「キットピーク天文台のお膝元アリゾナ州フラグスタッフ」は「ローウェル天文台のお膝元アリゾナ州フラグスタッフ」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。